

つながりリングタウン、平野

平野郷の歴史と現状

平野は中世には町の行政を町民自身で行う「環濠自治都市」として栄えた、大阪の中でも古い歴史をもつ町である。



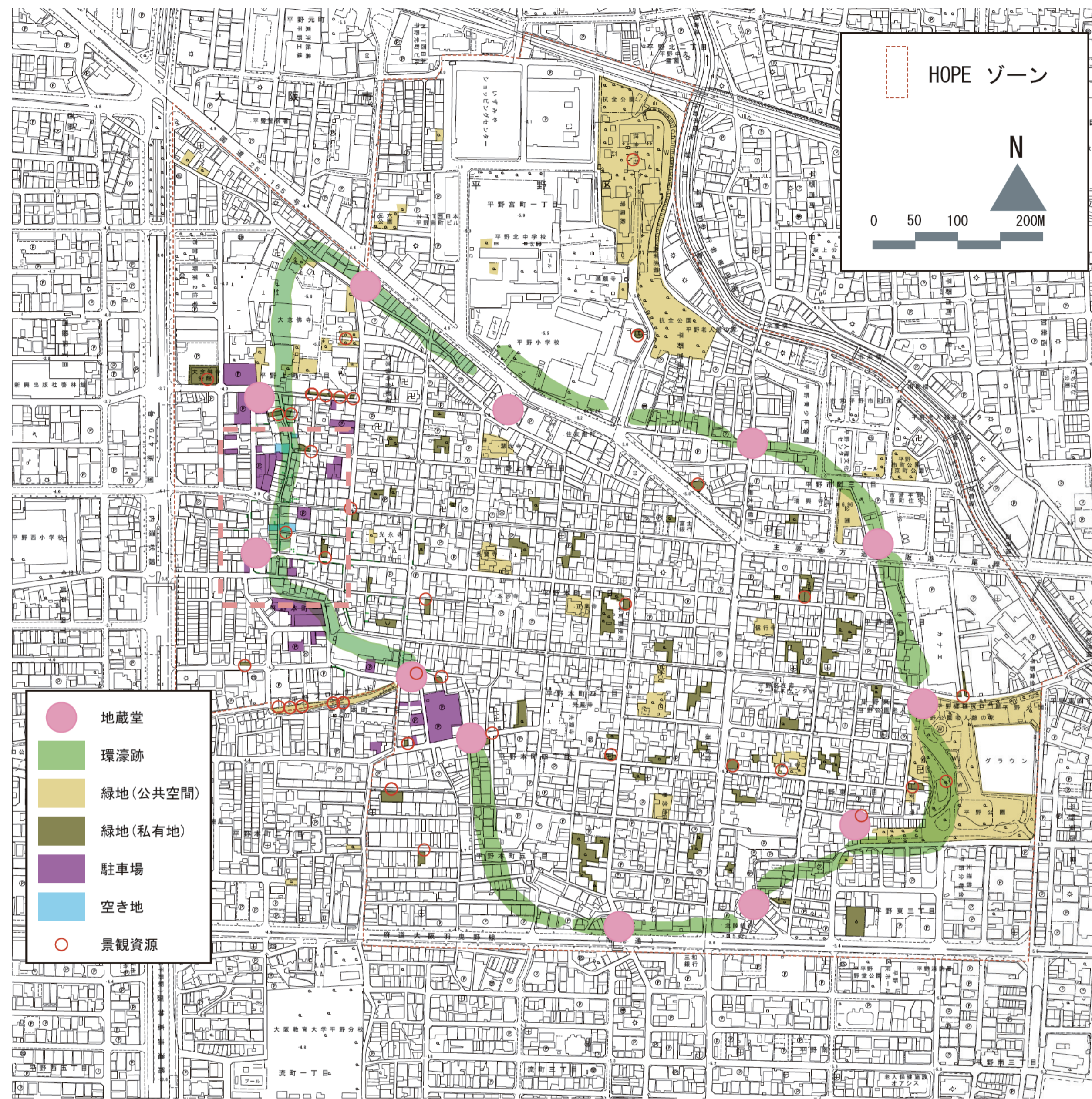
その面影は環濠跡や環濠出入口付近の地蔵堂、江戸時代から継承された町割、点在する道標・碑などに見ることができる。大都市にありながら戦火を免れ、多数の寺院・神社・町家などによる歴史的景観が残された貴重な町である。

その歴史的景観を生かした住環境の形成・修景整備を目的として、平成8年度には大阪市HOPE計画に基づく「HOPEゾーン」に指定されており、平成11年度のモデル事業以降これまでに20件を超える事業を行っている。このように、現在でも自治の精神にあふれ、住民の町づくり活動も盛んである。しかし、その一方で中心部は、経済的合理性から高層マンションの建設なども進行しているという現実もある。

問題点

- ・子供の遊び場、地域の人たちが憩えるようなオープンスペースが少ない。
- ・歴史的資産である環濠が埋もれてしまっている。

平野郷の景観要素



つながりリング構想

現在の問題点をふまえ、環濠を目に見える形で意識させる。

環濠跡である、路地、駐車場などをオープンスペースとして利用していく。リングを強化するため、旧環濠内に入ったという境界を形成するため、水・緑のネットワークをつくる。

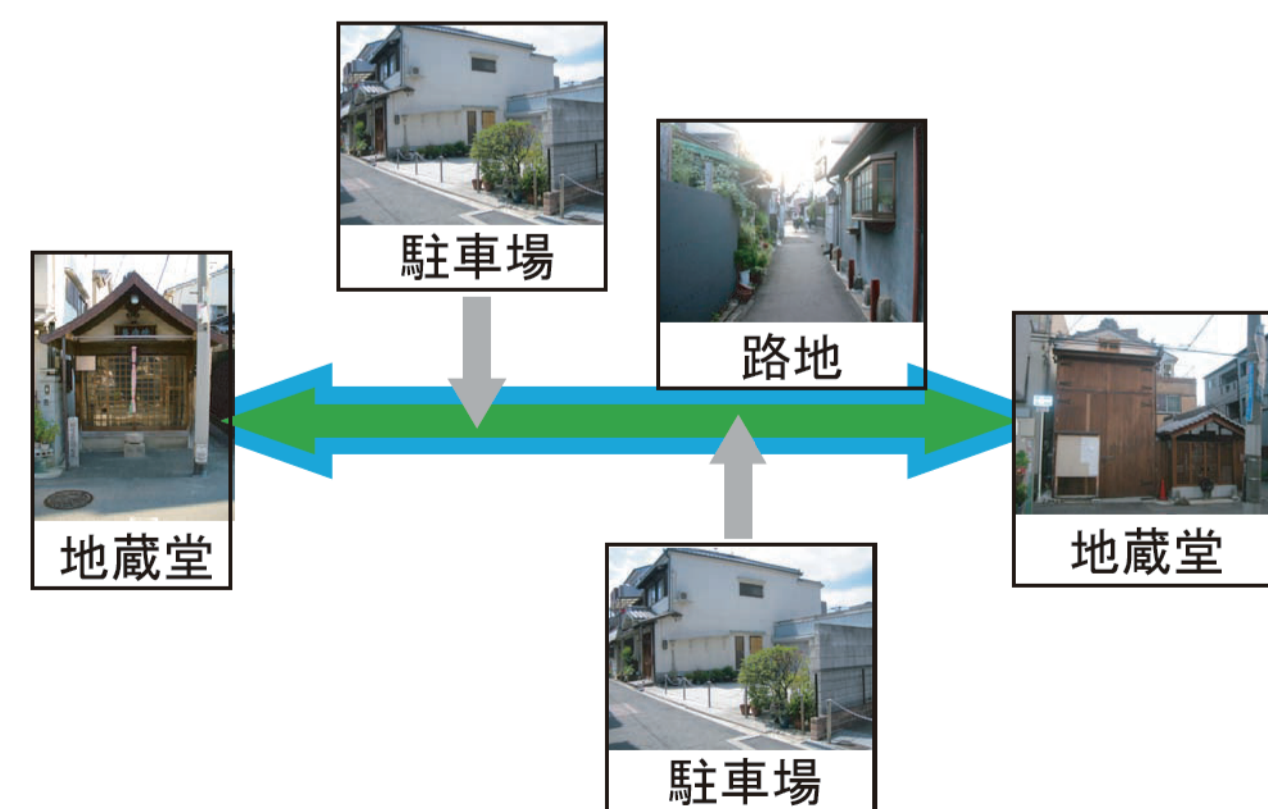
平野の人と歴史、住民同士の交わりを進行形で行いながら、未来へとつなげていく。

環濠跡である、路地、駐車場などをオープンスペースとして利用していく

リングを強化するため、旧環濠内に入ったという境界を形成するため、水・緑のネットワークをつくる。

環濠リングを強化する手法

地蔵堂間をつなぐ



地蔵堂と地蔵堂つなぐ役割として路地があり、その間に駐車場を集約することによって生まれた空き地を地域住民、観光客などのための交流の場として活用する。

水盆、路上の緑（植木鉢）の線的つながり

かつての環濠をイメージさせるように、水盆、緑を配置し、それらを点から線へとなることを提案する。

